

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	榊原 史啓
論文担当者	主査 石原 正治
	副査 若林 一郎
	副査 平田 淳一
学位論文名	Diffusion-Weighted Imaging-Fluid-Attenuated Inversion Recovery Mismatch Is Associated with 90-Day Functional Outcomes in Patients Undergoing Mechanical Thrombectomy (DWI-FLAIR mismatch は血栓回収療法を行った超急性期脳主幹動脈閉塞症における90日後の転帰と相関する)
論文審査の結果の要旨	
<p>急性期脳梗塞の血栓回収療法 (MT) における MRI 拡散強調画像 (DWI) の虚血性変化が fluid-attenuated inversion recovery (FLAIR) 画像で明瞭でない DWI-FLAIR mismatch の臨床的意義に関する後方視的研究を行った。対象は兵庫医科大学病院において、最終健常確認から 24 時間以内に MT を施行した症例のうち、内頸動脈から中大脳動脈 M2 部に閉塞を認め、術前の DWI-FLAIR mismatch を評価しえた 202 例。内訳は mismatch 群 146 例、match 群 56 例であった。Mismatch 群は、来院時 NIHSS が高く (中央値 16 vs. 13)、他院からの搬送が多く (78% vs. 63%)、rt-PA 療法の併用が多く (45% vs. 18%)、心原性塞栓が多く (69% vs. 54%)、発症から来院までの時間が短かった (中央値 175 分 vs. 371 分)。90 日後の Mismatch 群で modified Rankin Scale (mRS) 0~3 が多く (61% vs. 52%; 調整オッズ比 3.12, 95%信頼区間 1.35~7.19)、72 時間以内の症候性頭蓋内出血の割合が低かった (10% vs. 20%; 調整オッズ比 0.36, 95%信頼区間 0.13~0.97)。90 日後の mRS 0~2 (調整オッズ比 0.87)、全死亡率 (調整オッズ比 0.63) には有意差は見なかった。</p> <p>以上より MT 施行例において、DWI-FLAIR mismatch 例では、90 日後の転帰が良好で、症候性頭蓋内出血のリスクが少ないことが示された。DWI FLAIR mismatch がみられた場合は、発症時刻が不明でも、より積極的に MT を考慮すべきと考えられた。</p> <p>本研究の成果は MT 施行例における DWI-FLAIR mismatch に関して重要な知見を与えるものと判断され、学位授与に値すると評価した。</p>	